

11月27日(日) (9:30—16:00)

日本咬合学会総括 1 日セミナーにあたって:

今回、本学会主催のもとに丸山咬合学の真髄を 1 日に総括したセミナーが企画されました。丸山咬合学セミナーは半年 22 日間かけて行われたものです。それを 1 日で行うことは極めて困難です。しかし、その真髄は何とかお伝えできるかもしれません。そして、関心を持たれたかたは、来年度の詳細な研修会を受講ください。

なお、この丸山咬合学総括 1 日セミナーは日本咬合学会の認定セミナーも兼ねておりますので、本学会の認定医への関心のある方、更新を希望の方はぜひ受講ください。今年後期の丸山咬合学テーマは下記のとおりでした。これらに関して、デモも交え、総括して講演したいと思います。

丸山咬合学セミナーにあたって:

丸山咬合学は大阪大学教授時代の研究と臨床から生まれた“臨床生理咬合”と“全身健康咬合”の 2 大咬合理論の背景のもとに、丸山名誉教授自身が全国の日本咬合臨床研究所（東京、芦屋、札幌、和歌山、福岡センター）において年間千名以上の患者の咀嚼と全身健康咬合の診査・診断・治療や補綴治療を通じ、さらに臨床研究のもとに確立されました。元北海道大学医学部教授、人間性脳科学研究所所長、脳科学者澤口俊之先生との共同研究を北大医学部にて行ない、“丸山咬合療法により大脳前頭連合野、前頭眼窩皮質へのはたらきとして、‘脳の活性化、効率化、育成、若返り’、‘免疫系・感情系の改善’、‘がえられ、また、大脳運動連合野、運動野、小脳へのはたらきとして、‘身体のコリの改善’、‘身体・姿勢バランスの向上、体力増強、スポーツ能力向上’などの驚くべき結果”がえられ、丸山咬合医療のエビデンスペイストが明らかになりました。

さて、これからの時代に歯科医はどうあればいいのでしょうか？ 21 世紀の付加価値のある歯科医療とはなんのでしょうか？ 人々の求める歯科医療を行わなければ、価値は認められません。机上の空論では患者は治せません、臨床実学なしでは、歯科医療はなしえません、歯科医院の繁栄もありません。患者の満足する臨床技術とスキル(知識→技能→熟練)もマスターしましょう。患者の尊敬する、オーラのある歯科医になりましょう。2011 年前期の丸山咬合セミナーは明日からの臨床に役立つように、従来の内容とその視点を変えて、また、わたしの 47 年間にわたる補綴学者としての学問的裏付けと、補綴臨床家としての経験に基づいた丸山補綴医療をお教えするとともに、“より深く咬合を診て、考える”術をお教えし、さらに“オーラの出せる”術をお教えしましょう。

- A-1. 「‘咀嚼’—かめない、歯周破壊、補綴破損、義歯の痛みなどの問題の解決と、咬合異常の診断」
- A-2. 「‘咀嚼’—咀嚼咬合医療における基礎となる種々の診査と診断と、種々の咬合治療」
- L-1. 「‘咀嚼’の治療ライブ—患者における咀嚼のリシェイピングのライブデモ」

- B-1. 「‘全身健康’—愁訴の実態・分析と、全身健康をそこなう咬合の診査・診断」
- B-2. 「‘全身健康’—全身健康医療における基礎となる種々の診査と診断と、痛み・悩みの治療」

- C-1. 「‘クラウン・ブリッジ補綴’—新しい補綴理論による診査・診断・設計・技工、生理的・機能的・審美的設計」
- C-2. 「‘補綴の臨床症例の実際’—設計・技工・治療の実践を多数症例から実践」

- D-1. 「‘総義歯・局部義歯’—診査・診断、生理的審美的設計・咬合形態・人工歯配列技工」
- D-2. 「‘総義歯・局部義歯’—人工歯配列技工の咀嚼と審美の診査・評価、修正法」

- E-1. 「‘顎偏位治療’—顎偏位の診査・診断と、治療(MFA)の設計」
- E-2. 「‘顎偏位の臨床症例の実際’—顎偏位の多数症例の症状分析、咬合の診断」
- E-3. 「‘顎偏位の難症例の治療’—治療(MFA)の調整、歯列矯正を兼ねた顎位是正(MOA)と、審美顎矯正」

- F-1. 「‘咬合構成’—補綴の診査・診断・設計、咬合形態、支台歯形成、技工・ワックスアップ」
- F-2. 「‘咬合構成’—完成補綴技工の咀嚼と審美性の診査、評価、修正、口腔内での診査・診断、修正、予後」

- G. 「‘顎関節症’—病態・画像・病因、診査・診断と、治療、患者対応の方法」